

マンガ

□所要時間	30 分程度
□主なスキル	語彙
□形式	例) ペア、4 人のグループ
□概要とねらい	
多読図書の中にはマンガ形式のものもあります。絵本や平易なレベルの多読図書には挿し絵が多用されており、内容理解の手助けとなります。実際、挿し絵のないレベルになると、かなり難易度が上がり読みにくいと感じる学習者が多いようです。ある程度のレベルまで到達した学習者には、息抜きとして英語版のマンガ（コミック、4 コマ漫画等）を導入すると気分転換になるでしょう。ただし、必ずしもマンガならば読みやすいというわけでもないため、マンガを読む際の注意点も指導する必要があります。その一つとして、マンガに多用される英語のオノマトペ（擬態語、擬音語など）を取り上げます。英語のオノマトペが指導の対象となることは少ないので、その意味で学習者の興味を喚起することが期待できるでしょう。	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
紹介したいマンガ（ここでは主に『ドラえもん』を使用） オノマトペを紹介する教材 ワークシート（本解説の最後にサンプルを提示）	
□手順	
1. オノマトペをクイズ形式で紹介する。参考ワークシート（動物の鳴き声、生活音などをとりあげたエクササイズ）を参照 2. マングの抜粋をプリントして配付する。 3. 各自マンガを読み、オノマトペが出てきたらメモしておくように指示。 （教員もあらかじめオノマトペを抜き出しておく） 4. グループやクラスで答え合わせをする。	

【学生の反応】

➤ マンガについて

- 英語がシンプルだったのでとても読みやすかったです。英語の小説や物語を読むときは、今から読むぞとパワーを入れないといけないことが多いのですが、漫画だと構えることなく気楽に取り組むことができ、英語に対する苦手意識が軽減されるような気がしました。

- ・ 日本語で読んだことがあるからという理由もあると思いますが、漫画形式でとても頭にはいつてきやすかったです。
- ・ 絵があるのでわかったが、英語は難しかった。
- ・ やはりユーモアを感じ取れない分、面白さや楽しさを求めて英語の漫画を読むべきではないと感じた。
- ・ 日本語で親しんできたのですこし違和感を感じました。でも日本の漫画を世界に伝えられていいなと思いました。

➤ オノマトペについて

- ・ 日本語と全く違っても、たしかに！と思うような音が多くて面白かったです。
- ・ オノマトペは、日本語に特有の現象だと思っていましたが、英語にも存在することを知ってとても興味が湧きました。また、日本語のオノマトペに慣れ親しんでいる私から見ると、英語の鳴き声のオノマトペは何か違和感があり、その日本語と英語のギャップも興味深く感じました。
- ・ 英語のオノマトペは日本語と全く異なるものが多かったが、口に出してみると何となく分かった。
- ・ 日本語とは全く異なる。普段耳にする言語が違うだけで同じ音を聞いてもこんなに異なった文字に起こすことに驚いた。
- ・ 日本語に近い音もあったと思った。
- ・ 日本語よりも派手さを強調している気がした。(特にフォント)
- ・ 漫画では全て大文字で書かれていた。強調しているのだろうか？

【応用・解説】

本アクティビティで紹介したマンガは、英語版の『ドラえもん』の第1話です。『ドラえもん』を知らないという学生は皆無に近く、内容もわかりやすく、1話も短いので授業で紹介しやすいマンガと言えます。(第1話は15ページあり、英語にすると約1,000語程度になります。)

英語圏のマンガではなく、日本のマンガを活用する理由としては、慣れや作品自体の面白さもありますが、英語圏のマンガは文化背景を知らないと理解しづらい部分が多々あり、気軽に多読の素材にならないことが挙げられます。『ドラえもん』だけでなく、英語圏のマンガの一例として *The Peanuts* の4コマ漫画をあわせて紹介したこともあります。スヌーピーというキャラクター自体の知名度は高いものの、4コマ漫画のオチがわからない、どこがポイントなのか理解できない、などといった感想をよく耳にしました。実際、異文化理解の中でもユーモアのセンスは一筋縄にはいかないものです。多読促進の観点からは、消化不良を起こしそうな英語圏のマンガに固執せず、日本のマンガの英語版を取り入れ素材の幅を広げるだけでも授業中の指導としては十分と考えられます。

オノマトペの指導に関しては、マンガではなくオノマトペを取り上げた絵本を使うのも効果的です。例えば Dr. Seuss の *Mr. Brown Can Moo! Can You?* には、moo, eek, knock knock, choo choo, glum, pop など 英語圏でよく使われるオノマトペが出てきます。イラストを見ればどんな音を指しているかすぐにわかり、あっという間に読めてしまいます。なお、マンガにもオノマトペが多用されているものとそうでないものがあります。鳥山明の『ドラゴンボール』は、オノマトペだらけといっても過言ではありません。日本語のオノマトペをそのままアルファベット化している場合もありますが、マンガのオノマトペに興味がある場合は、『ドラゴンボール』をお勧めします。ちなみに、『ドラえもん』の第1話に出てくるオノマトペは次の通りです (klam klatta klam, gobble gob, da-da-dum, wap, wah, swoop, sloop, shaps, bwoom)。

【その他備考】

- ・ 藤子・F・不二雄 (著)、ジャレックス (著) (2002). 『ドラえもん』 (*Doraemon—Gadget cat from the future*) 第1巻 Shogakukan English comics.
- ・ Toriyama, Akira. (2010). *Dragon Ball: The monkey king*. 第1巻 Shonen Jump Graphic Novel. [Kindle]

Cf. 参考ワークシート

1. 動物の鳴き声 (誰の鳴き声?) 枠の中の選択肢から答えを選んでください。

- 1) bow wow
- 2) meow
- 3) squeak
- 4) baa
- 5) neigh
- 6) oink
- 7) chirp
- 8) quack
- 9) croak/ribbit
- 10) buzz/hum

小鳥	ねずみ
あひる	犬
ネコ	カエル
はち	ひつじ
ブタ	コウモリ
馬	
*不要な選択肢あり	

2. 何の音？ 枠の中の選択肢から答えを選んでください。

- 1) zoom
- 2) gulp
- 3) vroom
- 4) kaboom
- 5) phew
- 6) thud
- 7) pow
- 8) flip-flop
- 9) choo-choo
- 10) wham

ホッ、フー
ドサッ
シュッシュポッポ
ゴクリ
ドカーン
ドシン
パタパタ
ブルン
ビューン
ポカ！バシ！（打撃）

（文責：小林めぐみ）